



市防災担当部局・地域と連携して災害時の対応を共有

・・・市総合防災訓練の機会を通じて・・・

塩竈市内の小中学校が、「みやぎ県民防災の日」の6月12日（日）に行われた市の総合防災訓練に参加しました。

訓練の参加に当たっては、市内の防災主任会において、参加形態や取り組む内容を協議し、学校ごとに、防災のプログラムが実施されました。

各学校では、市の防災担当者や地域住民等と連携し、防災の学習や体験を行っており、以下に主な取組を紹介します。

【事前の「市内安全担当主幹教諭・防災主任会」の開催】

- 5月に開催し、市内の安全担当主幹教諭・防災主任・市防災担当部局参加の下、市総合防災訓練における取組の方向性等を確認した。

【当日の塩竈市内小中学校の共通した取組】

- 市総合防災訓練の地震発生を知らせる訓練報に合わせて、各学校で、避難訓練を実施した。
なお、杉の入小学校では、津波を想定し、校庭から第二次避難場所の高台への避難訓練を実施した。（本年5月に県が公表した津波浸水想定では、学校周辺に津波の浸水が想定されている。）



【市内中学校の取組】

- 3学年は、「共助」の視点で、避難所開設時に必要な対応を学ぶため、市防災担当者の助言を受け、パーティション（間仕切り）の設営や、備蓄倉庫の見学のほか、備蓄品の運搬などを行った。
- この他、学校ごとに個別の学習や体験が行われた。
第二中学校の3学年では、震災当時、避難所の運営に携わった地域の方を招き、当時の状況や避難所開設時に中学生ができることは何かを学び、2学年では、日本赤十字社職員を講師に心肺蘇生法等の体験、1学年では、松島自然の家職員を講師にロープワーク等の体験を行った。
第三中学校では、県教委の「学校防災アドバイザー」*として、宮城教育大学講師 林田由那氏を招き、「災害を自分事に捉える」ための講話を聞いた。
- なお、各学校では、震災での津波の到達点や地域の危険箇所をフィールドワークにより学ぶ学習を予定していたが、雨天により室内での学習に変更となった。



【市内小学校の取組】

- みやぎ防災教育副読本「未来への絆」等を活用した防災の授業や、防災グッズの作成、Jアラートが発表された時の対応訓練など、学年ごと発達の段階に応じた学習等を実施した。

*「学校防災アドバイザー」の派遣について

県教育委員会では、地域の災害特性を踏まえた防災体制構築や、実効性のある避難訓練等で、専門的知見からの助言を行う「学校防災アドバイザー」を派遣しています。
児童生徒への防災講話も可能です。

申請はこちらから⇒⇒⇒



「救急蘇生法の指針 2020（市民用）」について

今般、救急蘇生ガイドラインとして「JRC蘇生ガイドライン 2020」が作成・公表されるとともに「救急蘇生法の指針 2015（市民用）」を改訂し、「救急蘇生法の指針 2020（市民用）」が取りまとめられ、厚生労働省より各都道府県衛生主管部（局）に対し「救急蘇生法の指針 2020（市民用）の有効活用及び周知等について」が通知されています。

このことについては、令和4年6月20日付け保体号外「救急蘇生法の指針 2020（市民用）について」で通知しておりますが、厚生労働省のホームページに、本指針について掲載しておりますので、学校における心肺蘇生等の応急手当に係る校内研修や講習会の実施の際に参考にしてください。



救急蘇生法の主な変更点【市民用】※一部抜粋して記載

【全体を通しての基本的考え方】

- ・用語として「子ども」という表現は使用しないこととし、原則的に「小児」あるいは「乳児を除く小児」という表現に統一した。

【市民による救急蘇生法の主な変更点】

- ・傷病者に反応がない場合だけでなく、反応の有無の判断に迷う場合にも、119番通報とAEDの要請を行うようにした。
- ・「普段どおりの呼吸」がない場合だけでなく、「普段どおりの呼吸」かどうかの判断に迷う場合にも、ただちに胸骨圧迫から心肺蘇生を開始することを明示した。「死戦期呼吸」の用語は手順の図の中では用いないこととした。

【学校安全の推進に向けた参考情報】

東日本大震災の教訓を語り継ぐ動画教材

文部科学省

東日本大震災の教訓を語り継ぎ、各学校の防災教育に活用できる動画教材。震災時に小学生・中学生・高校生だった3名に、震災時の体験、震災後の活動、防災減災のために大切だと考えることなどを語ってもらい、次世代の子どもたちに震災の教訓を語り継いでいってもらえることができる内容。

視聴はこちらから⇒⇒⇒



「第16回学校の安全・危機管理セミナー 日本安全教育学会 Tokyo meeting 2022」参加募集

主催：学校安全教育研究所、全国学校安全教育研究会

「最近の自然災害と、これからの学校安全」をテーマに、大学等の専門家による講演とパネルディスカッションが行われます。

期日 令和4年7月29日（金）10：00～16：30（受付 9：30～）

場所 国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟

受講費 2,000円

申込み方法ははこちらから確認⇒⇒⇒



「令和4年度 1.17防災未来賞 ぼうさい甲子園」参加校・参加団体募集

主催：兵庫県、(株)毎日新聞社、(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構(人と防災未来センター)

平成7年1月17日に発生した阪神・淡路大震災の経験と教訓を未来に向けて継承していくため、学校や地域で防災教育や防災活動に取り組んでいる子どもたちや学生を全国から募集し顕彰する事業です。

これまで、県内の多くの学校が受賞しています。

コンクールの趣旨に沿った取組について積極的な応募を検討ください。

申込み方法ははこちらから確認⇒⇒⇒

